

令和5年度 学校評価報告

草加市立川柳中学校
(令和6年2月4日作成)

1 学校教育目標	
<p>【賢く】 ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、未来を力強く切り拓く生徒 ・自分の思いや考えを伝えられ、良識ある判断ができる生徒</p> <p>【優しく】 ・自他一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、正しい行動のとれる生徒 ・誰とでも協力して活動し、喜びを分かち合える生徒</p> <p>【逞しく】 ・共に磨き合い、課題や目標に挑戦し、あきらめない生徒 ・健康の保持増進と体力の向上に努め、安全な生活を心がける生徒</p>	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善と学習習慣の確立による学力の向上 ・生徒を認め、鍛え、育む中での豊かな心と逞しい体の育成 ・生徒の自立を促す学年 ・学級経営の充実・学校力を高める校内研修の充実 ・潤いのある学校環境の整備と美化の推進 ・豊かな人間関係の育成 ・保健・給食指導の充実及び体力の向上 ・進路指導・キャリア教育の充実 ・一人ひとりの自立を引き出す特別支援教育の推進 ・読書活動の充実 ・学校防災体制の確立と安心・安全な学校づくり 	<p>成果</p> <p>○生徒の活力が育つ、学校・家庭・地域が三位一体となって教育活動が行える学校体制。</p> <p>課題</p> <p>●学力向上と自己肯定感・自己有用感の向上。</p>

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	B	<p>○企画委員会が綿密に行われているため、職員会議は円滑に行われた。</p> <p>●教職員の数は減っていくが、必須校務分掌の数は減らない。適所への適材配置を行おうとすると、どうしても偏りが生じてしまう。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	<p>○適切な計画と運営が行われ、意欲的に取り組むことが出来た。また、成果も授業へ生かすことが出来た。</p> <p>○全校で、自己肯定感・自己有用感を育む授業づくりの研究に取り組んだ。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○安全点検・安全指導・下校指導は適切に行われ、事故防止に努めた。生徒の健康観察と疾病等の治療への対応も適切に行われた。</p> <p>○保護者学校評価「学校は生徒の健康促進に努力や工夫をしていますか」はA評価が90%であった。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<p>○施設内の破損個所への対応は迅速に行われた。コロナ後の復元対応として、学校開放における外部団体との使用施設箇所調整も滞りなく行われた。</p> <p>○保護者学校評価「学校は安心して学べる場所となっていますか。」はA評価が93%であった。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○保護者学校評価「学校は教育活動を保護者や地域に積極的に公開していますか。」のA評価は87%であり、前年度と比べて10%以上増となった。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○作品交流や小中交流音楽会、研究委嘱発表会等を通して、学びの系統性を再確認し合うことができた。</p> <p>●15年間を通じたカリキュラムの編成にむけて、年間指導計画の改善を図っていく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○目標は生徒、保護者に理解されている。指導計画や学級・学年経営に生かすことが出来た。 ●保護者学校評価「目指す生徒に育っていますか。」のA評価は①賢くは74%、②優しくは96%、③逞しくは92%であった。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教師主導から生徒主導へ、学習指導改善に努めた。また、振り返り学習の研究を全教員で行い、指導力の向上が図られた。 ●生徒学校評価「家庭学習をよくしている」はA評価が72%であった。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○いのちの授業（3年）といのちの学習（全学年）を行い、自他を大切にする心情や態度の育成を図ることが出来た。 ○生徒学校評価「自他の生命を尊重し、自然を愛護するよう心がけている」はA評価が95%であった。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画に基づいた指導、支援が行えた。特に委員会活動では、生徒主体を心がけた指導・支援が行えた。 ○生徒学校評価「係や委員会活動に積極的に取り組んでいる」はA評価が96%であった。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全体計画・年間計画に基づいた指導を行うため授業数の確保に努め、組織的に指導を行うことが出来た。 ●年度途中に県や市から指示のあった教育活動等により、年間指導計画にズレが生じてしまった。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○共通理解・共通行動で組織的な指導が行えた。また、心身の発達や個に応じた指導も行えた。 ○保護者学校評価「生徒はルールや約束を守って生活していますか」はA評価が96%であった。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導計画は具体的なものとなっているので、生徒に目的意識を持たせた指導が行えた。また、保護者の理解と協力がいたった。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の正しい理解と認識が深められた。行事等を通して、通常学級と特別支援学級間の交流が行えた。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書、昼の図書室開放等、書物に触れる機会を増やすことができた。学校司書のアイデア等で“司書教諭からの読み聞かせ”等を行い、読書習慣の促進を図ることが出来た。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○通信環境が改善されて、全学年一斉に活用することが出来るようになった。 ○ICT機器の活用は、全教科でなされてきている。
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒学校評価「自他を尊重し、思いやりと感謝の心をもって行動している」のA評価は97%であった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	若手教員が多い、活力のある元気な学校	・ミドルリーダーの育成 ・OJT研修等の活用 ・ボトムアップ手法の活用 ・働き方改革の推進 ・生徒との信頼関係	A	○生徒学校評価「授業は、分かりやすく楽しい」のA評価は89%、「先生は悩み事の相談にのってくれる」は94%、「友人関係は良好である」は98%であった。
	自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり	・わかる・できる・たのしいと実感できる授業 ・振り返り学習の充実 ・学力調査の結果と分析	B	○「草加市子ども教育の連携に関する児童生徒アンケート」における自己肯定感・自己有用感に関する質問事項については、川柳中学校区として全ての項目に数値の向上が見られた。 ●1単位時間の「振り返り」にとどまらず、単元を通じた「振り返り」をさせることで、学びの変容を実感させる取組を検討していく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられて、学校生活は以前行われていた様子へ戻っていった。その復元は見直しも含めて行われたが、運動会や合唱コンクール等には、たくさんの保護者の方に参観していただいた。本校の生徒は、明るく元気で活力のある生徒が多い。本年度は、草加市教育委員会委嘱の研究発表もあったが、生徒の自己肯定感・自己有用感の向上が顕著に見られた。コロナ禍であっても、学校・家庭・地域が三位一体となり教育活動を進めてきたこと、特に家庭や地域からのご協力を頂けたことが、この成果となっている。学校関係者評価でもC評価はなく、今後も驕ることなく邁進していきたい。

6 次年度の改善策

本年度同様、生徒の学力向上に向けて全校を挙げて取り組んでいく。本年度までは、主に振り返り学習を中心に「わかる・できる・楽しい」と生徒が実感できる授業づくりを強化してきた。その結果、埼玉県学力・学習調査アンケート質問紙結果項目の「先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができているか。」「授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと。」ともに、約5%の上昇（昨年度比）となっている。この結果をふまえて、来年度は以下の改善策を講じていく。

- ① 各教科、効果的な振り返り学習を研究し、生徒への指導を行う。
- ② 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と教材研究を行う。
- ③ 各調査結果の分析を引き続き行い、授業改善と教材研究を行う。
- ④ ICT機器を文房具のように扱える生徒が育つように教育環境を整えていく。
- ⑤ 家庭学習の指導を継続して行う。

これらの取組により、川中職員の助燃性をさらに上げて、生徒の向上力を促進させていく所存である。